

佐賀県研究成果情報

早生温州の隔年交互結実栽培とマルチ栽培の組合せによる高品質果安定生産					
[要約] 早生温州において隔年交互結実栽培とマルチ栽培を組合せることで、毎年の果実品質は安定して高くなり、慣行マルチ栽培に比べ粗収益は高くなる。					
果樹試験場・常緑果樹研究担当			連絡先		0952-73-2275
部会名	果樹	専門	栽培	対象	温州みかん

[背景・ねらい]

温州みかん栽培では、隔年結果や気象条件により収量や果実品質は大きく変動し、価格とともに農家経営は不安定となっている。そこで、隔年交互結実栽培の生産年において、マルチ栽培を組合せることで、果実品質の向上、安定による高品質果実の生産拡大を図る。

[成果の内容・特徴]

1. 隔年交互結実栽培とマルチ栽培の組合わせでは、収穫時の果実品質は慣行栽培の表年、裏年にかかわらず安定して高い(表1)。
2. 隔年交互結実栽培の露地栽培では、慣行栽培に比べ高品質果率は高いものの年次による変動が大きい。マルチ栽培を組合せることで年次による変動は少なくなり、高品質果率は高くなる(表2)。
3. 隔年交互結実栽培とマルチ栽培を組合せることで、10a当たりの平均の粗収益は、慣行のマルチ栽培に比べ多く、さらに年次による変動も小さくなる(図1)。

[成果の活用面・留意点]

1. 隔年交互結実栽培は、慣行栽培に比べ、省力化を図ることができ、さらにマルチ栽培を組合せてもマルチ資材の経費を少なく抑えることができるため、総合的な経営改善につながる。
2. 隔年交互結実栽培では樹勢を適正に維持することが重要であり、特にマルチ栽培では、通常の肥培管理に加え、葉面散布等を行い、樹体の栄養状態を適正に保つ必要がある。

[具体的データ]

表 1 収穫時果実品質

(H13 年 ~ H16 年)

処 理 区		表年 (H13、H15)		裏年 (H14、H16)	
		糖 度	クエン酸	糖 度	クエン酸
		(Brix)	(%)	(Brix)	(%)
隔年交互	マルチ栽培	12.3	0.96	12.9	0.87
	露地栽培	11.2	0.78	11.2	0.74
慣 行	マルチ栽培	12.5	0.84	12.8	1.21
	露地栽培	11.0	0.76	10.6	0.93

表 2 平均収量及び高品質果率

(H13 年 ~ H16 年)

処 理 区		平均収量 (t / 10 a)	高品質果率 ²⁾ (%)	
			表 年	裏 年
			隔年交互	マルチ栽培
	露地栽培	3.4 ¹⁾	17.1	59.3
慣 行	マルチ栽培	4.4	62.5	40.3
	露地栽培	3.7	15.6	16.9

1) 遊休園を含む。

2) 出荷果の特秀、特優の占める割合。

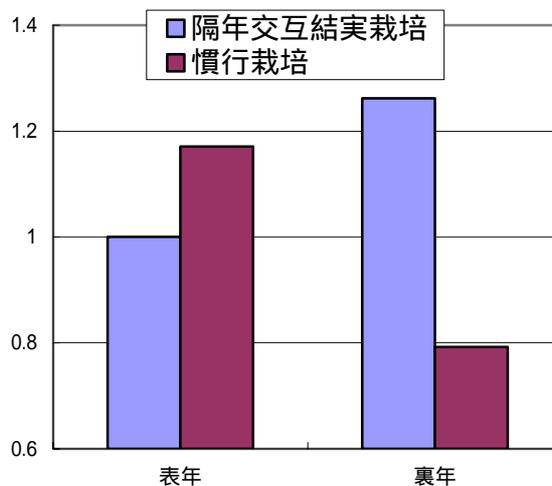


図 1 隔年交互結実栽培とマルチ栽培の組合わせと慣行マルチ栽培の粗収益の比較¹⁾ (H13 年 ~ H16 年)

¹⁾ 表年の隔年交互結実栽培とマルチ栽培の組合せの粗収益を 1 として比較。

[その他]

研究課題名：早生温州における隔年交互結実栽培技術の確立

予算区分：委託試験 (連携開発研究)

研究期間：平成 13 ~ 16 年

研究担当者：松元篤史・新堂高広

発表論文等：平成 14 ~ 16 年度試験研究成績概要集